

## 多治見市新火葬場建設検討委員会（第6回）議事録

日 時 : 平成22年9月27日(月)

- 議題 (1) 議事録の確認について  
(2) 第2回新火葬場地域経過報告会について  
(3) 第5回建設検討委員会での候補地現地視察について  
(4) 今後のスケジュールについて

時 間 : 15時00分～18時00分

場 所 : 多治見市役所3階第1会議室

出席者

(委員) 片山委員長、前田副委員長、笠倉委員、豊田委員、春田委員、宮島委員  
(事務局) 佐藤市民環境部長、浅野環境課長、市川副主幹、小木曾総括主査、桂川主査

### 1. 委員長あいさつ

### 2. 議題

- (1) 議事録の確認について

委員長から、前回委員会の議事録について確認。事務局案について了承された。

- (2) - 1 先進地見学会について

9月4日に実施された火葬場先進地見学会について事務局より報告

(委員長) 建設反対の立場で参加された方の感想などはありますか。

(委員) どちらかと言うと反対だけれど、実際の火葬場を見てみよう、という考えの方や、最近の火葬場がどのようなものか見てみたいという興味のある方の参加が多かったように感じました。質問はよく出ていましたが、建設について絶対反対という考えの参加者は無かったように思います。参加者の方とお話する中で、残骨灰の処理について意外に高い関心を持ってみえたのが印象に残りました。また、住宅や公民館もかなり近くにあり、普通の生活の中に入って存在していると感じました。

(委員) 参加者の中で、第2回報告会で発言された方が、以前は不安があったけれども、見学会に参加して、受け入れてもいいかなという風に気持ちが変わったと言ってみえたのが印象に残りました。

(委員) 2つの市で、炉のメーカーは同じ会社ですか。

(事務局) 偶然同じメーカーでした。

- (委員) 関市の火葬場では、建物の前に公民館があり、公民館の利用者が火葬場の駐車場を利用しているとのことでした。周辺住民の人たちが火葬場に対するアレルギーを持っていないことが感じられ驚きました。
- (委員) 関市は火葬場を建てる際の条件に、市街地からそれほど離れていないこと、路線バスの経路にあること、周辺住民の理解と協力が得られることの3つをコンセプトにしたとのことでした。特に路線バスについては、迷惑施設だけれど、自分たちが利用する施設でもあるとして受け入れている様子を感じられ、驚きました。
- (委員長) これから造る火葬場は、より地域に溶け込みやすいような、あるいは最後のお別れをする場所として相応しい場所であるような施設を造る必要があります、今後、施設についての検討では、候補地の地元区長さんにも委員会に入って頂くことになります。見学会は、重要な意味のある会ですので、必要があればまた実施していただいて、多くの方に参加いただきたいですし、ご理解いただく努力は最大限行っていかなければいけないものです。

## (2) - 2 第2回地域経過報告会について

### 資料1について事務局より説明

#### (笠原地域について)

- (委員) どの地域でも意見としてあったものですが、市が指定している進入ルート以外の道を使用する人はおそらくいるので、迷惑となるという意見があり、こちらが想定した通りの行動を住民がとってはくれないだろうという不安についての意見もありました。
- (委員長) 笠原町と多治見市が合併して、最初にできる大きな施設が火葬場なのかという不満の意見が出たようですね。笠原町の候補地は面積がかなり広く、また廃棄物の受け入れという機能がなくなります。火葬場だけの問題ではなく、候補地全体をどう使うのかという全体的なビジョンについては委員会の検討範囲を越えるものですが、そうしたビジョンを提示しながら、地域へご了解いただくということになると思います。確認ですが、候補地に決まった場合は、合併後に笠原町で初めて建設される大きな公共施設になるわけですね。
- (事務局) 現在協議中の建物もありますが、合併後、笠原地区ではおもに、道路や区画整理関係の事業を進めてきました。また、多治見市と旧笠原町地域との手数料等の平準化を進めたことで、旧笠原町時代と比較すると値上がりしている部分もあるようです。もちろん、そうしたことも含めて笠原町として合併を選択したという理解ですが、心情的には負担ばかり増えて、その上火葬場までくるのかという感情はあるようです。

(事務局) 道路整備事業としては、平和滝呂線の延伸として笠原鉄道の跡地を利用して、整備を行ったものと、潮見公園の取り付け道路を拡幅したものがあります。

(南姫地域について)

(委員) 報告会では、どんなものをつくるのか、それを見て気持ちを固めたい、という意見がありました。また、地域の発展につながるよう考えてほしいという気持ちが強いと感じました。

(委員長) ため池については、この前の豪雨による被害もあったことから、それに対する施策を打ちながら進めていく必要があると感じます。火葬場を建てるだけではないということ、道路についても、周辺整備についても、水利についても、住民にとってある程度納得できるような全体的な施策を打っていく必要があります。

(委員) 建物ができたから防災の整備がされ強化されました等、近隣に災害の影響がないという説明をしっかりと行っていただきたいと思います。セレモニーホールの建設について確認ですが、報告会の意見交換の中で、基本的に市では建設しないが、要望として出てきたので、小規模なものについて今後検討したいとの発言がありました。これは、セレモニーホールは造らないという市の意見を変更して、この委員会の中で検討していくという意味でしょうか。また、「地域の発展に繋がるような施設を」という、地域の権益に関するような意見がありました。これからそうした意見について「できる、できない」という返答を市から示されることはあるのでしょうか。

(事務局) セレモニーホール自体は市内に民間施設が8箇所もありますので、市として同様のものをつくる考えはありません。近年は、小規模な家族葬も増えているということで、内部の会議においても、待合室程度の面積で対応が可能な、建物の大きさへの影響が少ない形で対応できないかという検討は行いましたが、きちんとした議論はまだおこなっておらず、持ち帰って検討するという答えにとどめたものです。地域の発展については、具体的にどういうことをイメージされているのかわかりませんし、地元で検討委員会をつくられたこともあり、今後意見交換が必要になるとは考えています。

(委員長) 地域の発展については、地域住民にとって何かプラスになる整備をということですが、地元の検討委員会からの要望については、あくまでもそのまま受け取って、検討していく価値が十分あるのではないかと思います。南姫地域では、割合細かい、具体的なご意見が多くみられたようですね。

(委員) 南姫は30区として、統一してこの問題に取り組んでいきたいということで、地元の委員会は、反対としての組織という目的で立ち上げたわけではないようで

すね。

- (委員) 地元の方々も開墾地よりはため池のほうに意識が向いているように感じました。開墾地についてのご意見はほとんど出ませんでした。
- (委員) 報告会の中で、第2町内会で小さな会合を開いた際、誰一人賛成していなかったという発言がありましたが、第2町内会とはどのあたりですか。
- (事務局) 町内会の区域が広いため土地としては接しますが、ひと山向こう側になります。インターを降りて右に曲がるとライスセンターがありますが、そのまま真っすぐ進み、峠を越えた、山の向こう側になります。

(根本地域について)

- (委員) 反対意見もありましたが、見学会に参加された方から「考え方が変わった」という発言があったことが印象に残りました。また、第1回にも参加されたという方から、説明内容について、進展が見られないという意見があり、もっと突っ込んだ内容を知りたいという欲求を持ってみえるという感じを受けました。
- (委員) 前回とは違った意見が聞けたという点においてはよかったですと思います。また、ホームページや報告会でも、道路に関する意見も多く、危険度や渋滞などについて不安に思っている方が多いと感じました。歩道のない交差点があるとの意見がありましたので、周辺を歩いて確認してみました。また県道の一部には、確かに車道と歩道の分離がなされていない箇所もありました。そうしたところからも不安に思っているのかなと感じました。
- (委員) 反対派の方が参加しなかったとのことでしたが、どういうことですか。
- (事務局) 住民の意見を聞いてもらえず、話し合いのする気のない行政相手に席についても、何も生まれるものがない等として、不参加を通知する文書を当日会場の外で受け取りました。
- (委員長) 現場視察の際の、署名の受け取りについてですが、委員会は市長から委嘱を受けたものです。委員長あての文書であれば、受け取らざるを得ないと考えますが、宛先が市長と連名になった文書について、市長に代わって委員会が受け取ることにはできないと考え、そのような対応を取ったものです。市長と委員会は別の機関であり、そのあたりのところを混同されているのではないかと感じています。

(3) 第5回建設検討委員会での候補地現地視察について

(大藪町ため池について)

- (委員) 改めてため池を見て、周辺の景観や雰囲気も大変よく、この池をつぶしてしまうことはもったいないと感じました。面積も少し狭いように思います。
- (委員) 視察の時はライスセンターが稼働していませんでしたが、先週末、私的にライスセンターへ行ったところ、施設が稼働しており、車も5台ほど停まっています。繁忙期の状況については、利用している人たちに確認しておく必要があると感じました。1年を通じてみると一時期のことではありますが、気になる人はいると思います。
- (委員) 音についてですが、開墾地とため池を比較して、ため池の方が静かに感じました。開墾地側は248号バイパスが上り坂になっていることも影響しているかと思っています。ため池の候補地では頭の上を大きな車が通って行くという感じを受けました。
- (委員) 開墾地もため池も上流には沢筋が存在しています。面積も10000㎡に足らず、少し狭いと感じました。また、脇を流れる用水の水は冷たく透視度もありましたし、木々も多く茂っていますので、生物をはぐくむ環境として適していると考えます。そうした意味で、自然環境は大変豊かですが、それを破壊するのか利用するのか検討の余地があると感じます。それから、すぐ側に家が1軒ありますので、かなりしっかりした説明が必要です。また、斜面については民地もあり、買収に時間を要するのではないかとも思いました。
- (委員長) ライスセンターは1年を通じてどのくらい稼働するものですか。
- (事務局) 約2カ月ほどです。
- (委員) 248号を利用して、セレモニーホールから行きやすい場所にあると感じます。先ほどの委員の意見にもありましたが、ため池をつぶしてしまうことについてはもったいないという印象をもちました。周囲の景観はさることながら、樹林地がとてもいい雰囲気をもっています。火葬場へのアプローチは、俗世間から神聖なところへの道程ということになります。その点では、ため池はライスセンターに近いのに対し、開墾地はスムーズに入っていけるのではないかと思います。
- (委員) 2001年の岐阜県の自然環境保全対策事業報告書によると、ため池の湿地に貴重種としてモウセンゴケやセンブリ、ハッコウトンボなどの生息が記載されていますし、絶滅危惧種のレッドデータにあるマルタニヤンマの生息も情報として入ってきていますので、付け加えてお知らせします。
- (委員長) 貴重種の存在は決定的な理由にはならないとのことですが、そういう理解でよろしいですか。
- (委員) よいと思います。ここは、大藪ため池の改修に伴って、再度水をいれたもので、数年前に一度は水が無くなった池でもあります。建設をする際に、そうした貴

重種も保全するのかどうかという検討も必要になるかと思います。

(委員) 付近を深山の森全体として捉え、この地域全体を皆が親しんで利用できる森にできないかなという気がします。

(事務局) 自然との触れ合いの場としては、近くに大藪ため池という大きな池があり、散策路などが整備されています。基本的にはそちらがそうした役割を持っていると考えます。

(委員長) 行政としても、委員会としても、どうしてもここはそのまま残すという判断なのか、そうではないのかという選択をどこかでせざるを得ないと思いますが、議論としてはしっかりしておく必要があります。行政は、さきほどの貴重種についての意見やライスセンターについての意見に対して、市としてはどう対応していくか考えていかなければいけません。対策あるいは行政の基本的な姿勢が何かあれば、議論やすり合わせを行っていきたいと思います。

(大藪町開墾地について)

(委員) 日当たりが大変よかったのが印象に残りました。

(委員) 保安林の解除に時間を要するとありましたが、具体的にどのくらいかかりますか。

(事務局) 潮見の森公園を造った時は延長距離が長かったこともあり、2年ほど要しました。今回は距離も短いのでそこまでかかるとは考えていませんが、1年なのか1年半なのか何とも言えません。申請は、県の農林事務所経由で林野庁へ上がっていきます。県の担当者に聞いた話ですと、火葬場建設という要件的には、認められる可能性が高いとのことでした。

(委員) 高さがあまりないとのことので盛り土をしなければいけないというところは少し不安がありました。

(松坂町候補地について)

(委員) 近くの団地を中心に反対運動がありますが、反対してみえる団地よりも、少し離れたステーションパークの方が施設が見えるように思いますので、造り方など配慮が必要だと思います。

(委員) この候補地は、市のほぼ中央にあたりますか。

(事務局) 中央より少し北になります。

(委員) 他の候補地と比較すると中央に最も近いと思います。

(委員) 市の中心部という点では、最もアクセスがいいと言えると思います。

(委員) 自分の経験ですが、以前、近くでトンネルや埋め立て地の工事があった時、工

事が終了してからの通行車両による影響よりも、工事期間中の方が、短期間に多くのダンプが通るため、騒音や道路の傷み、渋滞が大変気になりました。松坂町の候補地の交差点も車線は1本ですので、工事期間中の渋滞が予想され、不満がでるのではないかという気がします。また、県道なので、道路の傷みについても、対応に時間がかかるのではないかという懸念もあります。出来てしまっからの渋滞よりも、工事期間中の渋滞が気になりました。

- (委員) あの交差点での交通量調査は行われていますか。
- (委員) 岐阜県の交通量調査はもう少し手前（多治見市街地側）で行われています。
- (委員) 文化財の調査はどうなっていますか。
- (事務局) 登り窯が一基あるとのことで、文化財保護センターと協議しながら進めることになります。
- (委員) 下水処理の方法について、他の候補地は合併浄化槽で対応し、松坂町の候補地のみ下水道本管に接続するとなっています。雨水についても他の候補地は普通河川に排水となっていますが、松坂町のみ排水できる水路までの工事が必要とあります。コスト面で比較するとどうなのでしょう。
- (事務局) 下水については、料金体系が従量料金制度のため、水道料に対して料金が決まります。維持管理としては、その料金を払っていけば対応できます。浄化槽については年3回の保守点検や年1回の法定検査や補修にかかる費用が必要となります。雨水に関しては、県道の側溝への直接排水は設計上できませんので、少し離れた排水路まで工事をつなぎ、最終的には北丘川へ流します。
- (委員) 15000㎡もの土地ですが、雨量によって氾濫を起こす心配はありませんか。
- (事務局) 基本的には調整池で調整をかけますし、既に大きい管が入っていますので排水については計算上可能と考えていますが、別に管を入れることについて等、他の方法についても検討は行っています。
- (委員) この敷地は、すべて民地であり購入しなければならない訳ですよ。セレモニーホールからの距離は確かに近いようですが、広い面積の造成も必要ですし、他の候補地に比べると、敷地としての魅力があまり感じられませんが、何か特に選ばれた理由がありますか。
- (事務局) 中心地から近いということ、次に幹線道路から直接乗り入れができるということ、また、形状が丘で造成は必要ですが、周囲は緑に囲まれています。また、地権者の了解が得られるといったことも主な選定の理由です。
- (委員) 近接する団地の人にとっては頭の上に建設されることになりますので、抵抗があるとは思いますが。
- (委員長) 私有地を選んで購入するということについては、特に問題ではないと思います。また、住宅地が近いということについても、そのような場所はたくさんあり、珍しいことではありませんので、行きやすい場所として、アクセスを優先する

というのも一つの考え方です。逆に、市街地から抜けて、静寂感のある、もっと自然度の高いところを選ぶというのも一つの考えです。そういう意味で、市のプロジェクトでは色々なタイプの候補地を選ばれたのかなと思います。点数化はやはりなかなか難しいので、議論を重ねて、最終的にどのコンセプトで委員会としての結論を出すか決めてはどうかと考えます。そのためにも、いろいろな意見を出していただけるといいですね。

(笠原町候補地について)

(委員) 梅平地区の住民の方への説得は必要ですね。

(委員長) 説明には市のはっきりしたビジョンの提示が必要になりますね。

(委員) 土地が広いということは意味があると思います。埋立ちは残すとしても、それ以外の部分の活用について、地元の方が言われるような地域の活性化につながる開発ができる可能性が高いように感じました。利用者の通行ルートについて、いくら市が指定しても、皆がそれに従うわけではないという意見は確かにその通りだと思いますし、住民感情としてはとても理解できますので、真摯に向き合って対応していく必要があると思います。

(委員) ごみ処理場や工場、病院などが周囲にあり、開墾地やため池の候補地に比べると静寂感や厳かさには欠けるかと思います。

(委員) 建築基準法上の接道について問題があると聞いていますが、整備はできるのでしょうか。

(事務局) 市道認定のかかっていない道路に付随して建物ができているので、このままでは建築することができませんが、道路幅員など整備をすれば建築ができるようになります。途中で進入道路の勾配が市道の基準を越える場所もありますので、幅員だけでなく勾配なども整備していく必要はありますが、すべて市道なので整備をすすめることは可能と考えます。勾配については、あまりきついものは棺がずれるなどの支障を生じる可能性もあるとのことですのでそういう点からも整備は必要です。

(委員) 以前進入路の凍結について話がありましたが、どのような対応がされるのですか。

(事務局) 融雪剤をまくなどの対応になるかと思いますが、火葬は通常早朝には行われませんので、凍結や積雪についても使用時間までには何らかの対応ができるものと考えます。

(委員) 火葬場を理解していただくうえでも、自然豊かなこの地域に、10年20年安定して市民の憩いの場所となるような公園を造るなど、ビジョンをもって検討していくべきだと思います。



(委員長) 多くの意見が出ましたが、次回も時間をかけて議論を進めたいと思います。

次回の開催日時を11月2日13時からに変更することで了承し、委員会を終了

午後6時 終了